

POLE

北海道ポーランド文化協会会誌「ポーレ」
第 46 号 2000.10.1

発行
北海道ポーランド文化協会
〒 060-0052
札幌市中央区南2東2
河合楽器製作所北海道支社
電話 011-231-8661
FAX 011-221-4936

カジミエシュ大王と

ユダヤ人女性エステルカ

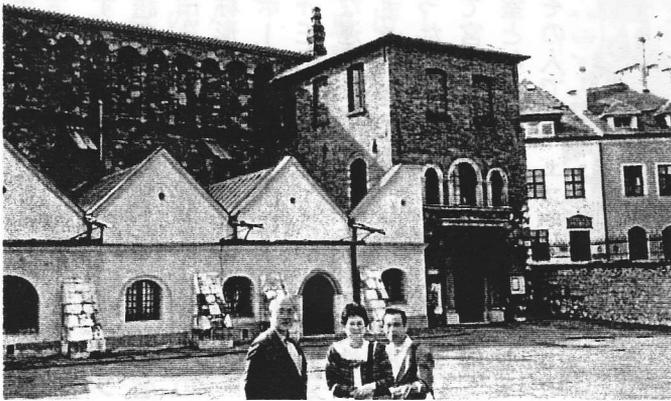
—ポーランドの都市の伝説③—

栗原成郎

ナチス・ドイツによるポーランドのユダヤ人迫害史のなかの一挿話を描いたスピルバーグ監督の映画『シンドラーのリスト』を観てから、その撮影の舞台となったクラクフのカジミエシュ地区は一度は是非訪れたいと思っていた街でした。一九九八年の八月末から九月初めにかけてクラクフにおいて国際スラヴィスト会議が開催されており、期せずして、このユダヤ人街にあるホテルに十日も宿泊することになりました。

カジミエシュという地名は、西ヨーロッパで迫害されていたユダヤ人に一三三五年にこの地区への入植を許可したカジミエシュ大王の名に因んで付けられました。十四世紀後半にはカジミエシュは四方を堅牢な壁で囲まれ、五つの門をもつ、クラクフとは別個のユダヤ人の小都市となりました。ポーランドの三国分割

ののち、一八〇〇年にオーストリアがクラクフ市に併合し、街の壁は取り壊されました。第二次世界大戦中



ナチス・ドイツはクラクフを占領し、カジミエシュ地区のユダヤ人をヴィスワ川を越えたポトゲージェに強制移住させ、さらに各地の収容所へ送りこみました。

現在カジミエシュは「歴史文化地区」として廃墟のなから再生しつつあります。

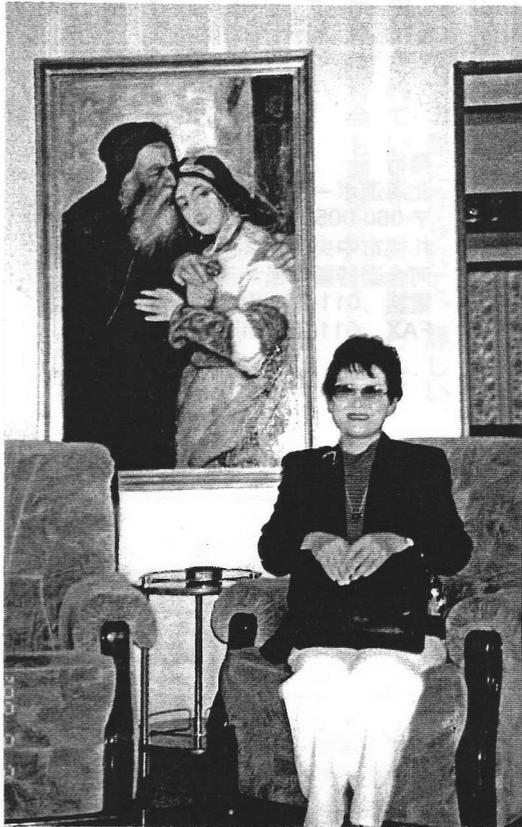
この再建されつつあるユダヤ人街の広場の一角に「エステル」という小さなホテルがあります。九八年の春に新築され、オープンしたばかりというだけの理由で、カジミエシュ地区の由来も知らない日本人の旅行社が予約をしてしまった。その三つ星クラスの小ホテルに会議に出席する日本代表団の主力が宿泊することになりました。同宿の日本人は十二名でしたが、紙幅の都合で北海道ポーランド文化協会の会員になっていただいている方だけのお名前を挙げる、佐藤純一氏（東大名誉教授）ご夫妻、灰谷慶三氏（北大教授ご夫妻、小原雅俊氏（東京外国語大教授）、それに栗原夫婦。

私は、ホテルに入る前から、エステルという名前が気になっていました。ユダヤとの関連から旧約聖書の

上の写真 カジミエシュ地区の古いシナゴグ（現在ユダヤ博物館）左から佐藤純一教授・栗原夫婦

「エステル記」の物語のヒロインの名をとったものであることは察しがつきました。エステルはバビロンに捕囚として連れて行かれた離散のユダヤ人の家系に属するが、ペルシャ王クセルクセス（アハシユエロス）の王妃となり、ユダヤ人撲滅を企む悪徳の大臣ハマンを権力の座から失脚させて、同胞を危機から救った美貌の女性。

ホテルのフロントの正面の壁には一枚の大きな油絵がかかっています。父親とおぼしき老人が若い美しい娘の肩をそっといただき、いとおしげに顔を寄せて、別れを惜しんでいるように見えます。娘は愁いに満ちた目を伏し目がちにしています。そのまなざしは未来を見つめている



左の写真 ホテル「エステル」のフロントの壁を飾るヤン・マテイコの絵

ようで、左手を父親の愛に応えるかのように老人の胸に当てています。画題はしるされていませんが、ヤン・マテイコ（一八三八・九三）の作です。私はこの絵にすっかり魅せられていました。最初、娘はエステルで、老人はみなしこの彼女の養父となつたモルデカイであろう、と思っていました。しかし十日絵を見ているうちに、この絵には、聖書主題を踏まえながら、遠い旧約の時代にはなくポーランドの歴史に深く関わっている物語が秘められているような気がしてきました。

総会と懇親会の お知らせ

2000-01年度の北海道文化協会総会と懇親会を下記のように開催します。皆様お誘い合わせの上お越し下さい。

【日時】2000年10月13日(金)

総会 6:30~7:00

ピアノ演奏 7:00~7:20

●ショパン練習曲作品10 No.5 No.6

國谷 聖香

●ショパン練習曲作品10 No.11 No.12

塚原恵美子

会食 7:30~8:45

【場所】すみれホテル

札幌市中央区北1条西2丁目

(電話) 011-261-5151

【懇親会参加費】4000円

ホテルの名はEstelとなり、この形は男性名詞なので女性が表すにはふさわしくなく、ポーランド語では聖書の物語のヒロインの名はEstherとなり、その愛称形はEstelとなります。ポーランドの伝説によれば、ペルシャ王妃となったエステルと同じような運命をたどったユダヤ人女性がいいます。庶民を愛し、人種差別を嫌ったカジミエシュ大王に見そめられて宮中に召され、王の寵愛を得て側室となった絶世の美女エステルカがその人です。エステルカは二人の

王子と二人の娘を産んだ、と言われます。いまは詳しく物語を紹介する余裕はありませんが、ポーランドの歴史主題を得意としたマテイコの筆に成るあのホテルの絵は、父の意にさからってカジミエシュ大王の後宮に向かうエステルカの新しい人生への旅立ちを描いたものである、と私には思われます。エステルカは、聖書のエステルのイメージと重なり合って、ポーランドのユダヤ人の守護聖人的存在となつていきます。(創価大学教授)

九八年十月協会親善旅行でのこと、夜ワルシャワのホテルの部屋で休んでいると、突然の電話、「アンナです。いらしゃい！十日の五時にホテルへ行きますので、待っていて下さい。私だけでなく、懐かしい人達が集まることになっています。」

「どなたが？」「それはヒミツ！」ホテルのロビーで、北大文学部で勉強されたアンナ・ボジェクさんがニコニコと「お久しぶり、お元気ですね！」。農学部で研究されたダリウシュ・ビエズビツキ先生、文学部で勉強されたマリウシュ・ワタさん、理学部で学位をとられたイエジ・ビエズビツキ博士が次々と、「チェン・ドブルーイ、いらっしゃい！」。皆さんはポ文協総会の出席経験者ばかりだ。まずは記念撮影。「富山さん、外へ出ましょう。今日の富山さんはお客さんですから…。ヴァルシャヴァで北海道ポーランド文化協会の集まりを！大学同窓会を！」。

まず、ピーヴォ（ビール）で乾杯！ポ文協万歳！日本語は我々のテーブルだけ…ハリーナ熊倉さんはお元気ですか…円山公園の桜…秋の大学構内…北海道の大雪…札幌の思い出。懐かしく、楽しく、そして有り難い夕べであった。チェンクレーン・バ

旅の思い出

ワルシャワで北海道ポーランド文化協会 乾杯！

富山 信夫



ルゾォ！世界は狭くなった。札幌での出会い、ワルシャワで再会、不思議な縁。人生は面白い。

後日、ハリーナ・J・イヴァニチコバ教授（北大スラブ研）に、この話をしたところ、先生曰く「何と楽しい思い出！」

Nawet o zawarciu znajomości decyduje przeznaczenie... 袖摺り合うも他生の縁」と。

二〇〇一年

北海道ポーランド文化協会主催

ポーランド

旅行について

前四十五号でお知らせしたポーランド旅行の内容が少し変わりました。

① 出発予定日

九月下旬↓八月下旬

② 宿泊地変更

ザコパネ二泊↓クラコフ二泊

に変更します。

なお詳しい内容・費用・申し込みの方法などについては次号でご案内します。

たくさんの方の参加をお待ちしています。たのしいですよ。

国交樹立八〇周年・
国際シヨパン年記念

ポーランド料理 レシピ集

頒布のお知らせ

このたび、日本ポーランド協会関西センターにより、「ポーランド料理レシピ集 KUCHNIA POLSKA」が、二〇〇〇年三月三十一日に発行されました。

お料理は、関西センターのメンバーで実際にポーランドに滞在、旅行した経験のある方達、また関西地区に在住のポーランドの方々によって一つずつ実際に作られて、詳しい説明がされています。(例会としてお料理講習会も開催されているそうです。)

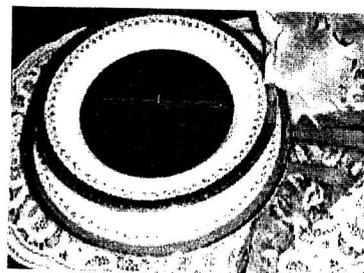
三十四のレシピと、お料理にまつわるエッセイ、ポ日食材辞典など、楽しい盛りだくさんの内容で、総カラー、全七十六頁(B5版)です。限定三百冊なので、興味のある方は下記まで、どうぞお問い合わせ下さい。

目次

- ・「発刊にあたって」
- ・「ポーランドの料理」
- ・「ポーランドの暮らし」
- ・豆のスープ
- ・ミゼリア
- ・ポロネギのサラダ
- ・レタスとピーマンと白チーズのサラダ
- ・カリフラワーのサラダポーランド風
- ・野菜スープ
- ・豆とサワークラウトの煮込み
- ・ポーランド風グリーンサラダ
- ・お米のサラダ
- ・ビゴス(1)
- ・けしの実のトルテ コーヒークリーム添え
- ・にんじんとりんごのリラダ
- ・にんじんとりんごと西洋わさびのサラダ
- ・鶏レバーのパテ
- ・牛肉のソテー
- ・マッシュルームのフライ
- ・トマトと玉ねぎのサラダ
- ・「ポーランド食生活のこころ」



- ・じゃがいものコピトゥカ豚肉ソース添え
- ・じゃがいものプラツキ (=パンケーキ)
- ・サワークラウトのビエロギ
- ・牛肉のロール煮込み
- ・シャルロトカ (=りんごのケーキ)
- ・「ポーランドのクリスマス」
- ・「ポーランドの復活祭」
- ・赤かぶのスープ聖夜風
- ・赤かぶの温野菜
- ・ピエルニック
- ・豚肉のフルーツ詰め焼き
- ・マコーヴィエツ
- ・ビゴス(2)
- ・詰めたまご
- ・ファボルキ
- ・ポンチキ
- ・セルニック
- ・「ポーランドの四季と自然」
- ・「お料理講習会について」
- ・「ポ日食材辞典」



「ポーレ」編集委員会
小笠原正明・斎田道子
佐々木保子・高岡美保
三浦洋
(連絡先)
621-1738 (斎田)

☆価格……………一般は1冊(直接手渡し)——1,800円
(郵送)——2,000円

☆お申し込みは下記へ。代金と引き替えにてお渡し。
郵送の場合は、連絡の上、代金をお振り込み下さい。
入金を確認後、ご送付いたします。

【申込先】〒669-1132 西宮市名塩南台4-5-4 (藤井)

TEL/FAX: 0797-61-0377

e-mail: tmfujii@pop21.odn.ne.jp

【振込先】郵便局 00920-6-159945

日本ポーランド協会関西センター 編集委員会

POLE 第 46 号(2000.10.1)目次

栗原成郎「ポーランドの都市の伝説③カジミェシ大王とユダヤ人女性エステルカ」	1
第 14 回総会・懇親会(2000.10.13)のお知らせ	2
富山信夫「旅の思い出～ワルシャワで北海道ポーランド文化協会～乾杯!」、創立 15 周年記念 2001 年ポーランド旅行(2001.8.30～9.9)について	3
国交樹立 80 周年・国際ショパン年記念ポーランド料理レシピ集頒布のお知らせ	4